

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定校
研究開発課題及び研究開発の概要

学校名	研究の概要
<p>栃木県立 宇都宮商業高等学校 (商業)</p>	<p>【研究開発課題】 信用が資本の人づくり ～ビジネス社会の未来を担い、地域を支える人材を育成する教育プログラムの開発を通じた新しい商業高校モデルの構築～</p> <p>【研究開発の概要】 宇都宮商業高校がもつ様々な財産やネットワークを有効に活用し、これからの地域を担う人材として必要な次の資質・能力を育成するための教育プログラムを開発し、新しい商業高校モデルを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地元の大学、企業、経済団体などとの連携を通じた、高付加価値な商品・サービスの開発を担うベンチャーに必要な資質・能力の育成 2 銀行、証券会社、生命保険・損害保険会社等に関する企業研究及びその職務の研究などを通じた金融を担う資質・能力の育成 3 資格取得への挑戦を通じた、税理士、公認会計士、ファイナンシャルプランナーなどの職業に就くために必要な資質・能力の育成
<p>千葉県立 一宮商業高等学校 (商業)</p>	<p>【研究開発課題】 「高校生版DMO」の活動を核とした地域観光ビジネス教育プログラムの開発</p> <p>【研究開発の概要】 将来、地域観光活性化のために活躍することのできる専門的職業人としての次の資質・能力を育成するための教育プログラムを開発する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科「商業」における「マーケティング分野」及び「ビジネス情報分野」をはじめとした各科目の学びを生かした、観光ビジネスについての体系的・専門的・実践的な知識及び技術 2 地域観光に関する課題を発見・設定し、専門的職業人としての倫理観をもって観光ビジネスについての体系的・専門的・実践的な知識及び技術を活用して、合理的・創造的に課題を解決する思考力・判断力・表現力等 3 将来にわたって地域観光を支える人材として必要な人間性及びより良い地域社会の実現に向けて当事者意識（シビックプライド）をもって主体的に学び、協働的に物事に取り組み、探究する態度
<p>千葉県 館山総合高等学校 (家庭)</p>	<p>【研究開発課題】 教科「家庭」の学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材育成プログラムの開発～地域の生活を支え、地域の賑わいを創り出す「まちカフェ」プロジェクトへの挑戦～</p> <p>【研究開発の概要】 地域や社会の課題を見だし、その解決に向けて、生涯にわたり家庭科の専門的な学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材を</p>

	<p>育成するため、次のような取組を行う。</p> <p>コミュニティの再生・活性化及び生活の質の向上を目的とした「まちカフェ」に挑戦する。「まちカフェ」の運営にあたっては、「減災活動」、「交流」、「食のまちPR活動」、「地域の魅力発信」の4つのフィールドを取り上げ、館山市を中心に、NPO団体や社会福祉法人等各機関と連携し、次代の郷土をつくる人材の育成や学校を核としたまちづくりを一体的に進めていく。</p> <p>協働型・双方向型や課題解決型学習を柱とした教育プログラムの開発を行う。その際、大学等の協力を得て、学習過程に地域での実践の場「まちカフェ」運営を位置付けたり、学年縦断型の学び合いを取り入れたりすることにより、知識のより深い理解や技能の習熟や課題解決能力、主体的に学ぶ力の育成を図る。</p>
<p>岐阜県立 岐阜農林高等学校 (農業)</p>	<p>【研究開発課題】 地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する人材育成の研究 ～新たな技術や発想を取り入れた農業を創造する “GINO Brand”を目指して～</p> <p>【研究開発の概要】</p> <p>1 地域の多様な分野の企業、機関等との協働による研究活動を進め、社会の変化や産業の動向に対応できる人材の育成を目指す。また、グローバルな視点から農業生産、食品加工、環境保全について考えることができ、地域農業の活性化と持続的発展に対応できる能力を身に付けた、将来の地域農業を担う人材の育成を目指す。</p> <p>2 本県において今後需要の拡大が見込まれる地域ブランドの展開については、高度な知識・技術に加え、知的創造サイクルや農業生産工程管理・品質保証システムの活用等、商品価値の向上とブランドの創造ができる、知的財産マインドと課題解決能力を備えた経営スキルを醸成する。</p> <p>3 本県農業の担い手確保の観点から、ICTやAI、IoT等を活用したスマート農業を展開できる能力を育成し、地域の第1次産業の発展に貢献するとともに地方創生をリードできる人材を育成する。</p> <p>“GINO Brand”の構築による人材育成 「もの」を創造できる能力の育成 地域の実態に応じた課題発見や課題解決能力の育成 安全で安心な価値の高い食品ブランドづくりができる能力の育成 生産方法を工夫した農産物ブランドづくりができる能力の育成 環境に配慮した技術活用ができる能力の育成</p> <p>注) “GINO Brand” 岐農ブランド＝「地域と連携して創り出す独創的な製品」と「知的財産マインドと課題解決能力を備え、地方創生をリードできる人材」を指す。</p>

大阪府立

農芸高等学校

(農業)

【研究開発課題】

学校、地域、社会のリソースを活用したチャレンジ精神豊かな地域創生ジェネラリストの育成
～高付加価値をめざした商品開発と持続的な開発のための教育実践～

【研究開発の概要】

- 1 高付加価値をめざした商品開発(農芸高校ブランド)や地域課題解決への協働・参画等を通じた、地域活性化に貢献できるチャレンジ精神豊かな地域創生ジェネラリストを育成するための研究開発を行う。
・本校環境に潜在する教育資源である学校、地域、社会のリソースを活用して研究プロジェクトに取り組む。
・知的財産の創造・開発を行い、高付加価値をめざした商品開発を行う。
・持続可能な開発のための教育(ESD)実践として地域課題解決をめざした研究プロジェクトに取り組む。
- 2 科目「課題研究」「総合実習」を本事業の中核科目として位置づけ、下記3つの力を「チャレンジ精神豊かな地域創生ジェネラリストの育成」に必要な3つの能力として定義づける。
・高度な知識・専門技術【スキル】
・環境(持続可能な開発)及びグローバルな視座【ビュー】
・チャレンジ精神【マインド】
さらに、これら3つの力を育むための体系的・系統的な学習プログラムを構築する。
上記1,2を通じて、生徒の変容を可視化し各教科および学校行事等にもフィードバックすることで、指導方法のブラッシュアップを図る。そして、「チャレンジ精神豊かな地域創生ジェネラリスト」を育成するためのロジックモデルを作成するとともに、教育活動全体での体系化を図り、「社会に開かれた教育課程」の開発につなげていく。

熊本県立

熊本工業高等学校

(工業)

【研究開発課題】

産学官協働により災害対応型エンジニアを育成する教育プログラムの開発

【研究開発の概要】

熊本地震に学ぶことから始め、防災、減災時や災害発生時において適切な対応や貢献ができる人材の育成を目指して、災害対応型エンジニアを育成する教育プログラムの開発に産学官が協働して取り組む。

育成を目指す人材像

- ・インフラ復旧に貢献できる力を備えた人材
- ・新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を備えた人材
- ・居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を備えた人材

研究開発するプログラム

第(土木科型)	インフラ復旧に貢献できる力を育成する教育プログラム
	発災後の応急対応及び復興に向けて見通しを立てる能力、外部関係機関と連携したインフラ整備能力等を身に付けさせるために、i-constructionをはじめとする様々な技術の活用体験とその習得や防災マネジメント等について研究する。

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="550 152 622 405"> (建築型) 第1型 </td> <td data-bbox="622 152 1366 405"> 新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を育成する教育プログラム i-construction 等を活用した建物の耐震診断技術、新耐震技術を文化財に応用する技術、被災時における建築技術者としての対応ができる人材育成のために、i-construction (非破壊診断等) の活用や伝統工法の技術の習得等について研究する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 405 622 658"> (インテリア型) 第2型 </td> <td data-bbox="622 405 1366 658"> 居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を育成する教育プログラム 災害公営住宅等での居住空間におけるコミュニティづくりの技術、生活を快適にするアメニティづくりに関する考え方や能力等を身に付けさせるために、避難所運営支援器具やコミュニティ支援具の製作、まちづくり整備について研究する。 </td> </tr> </table> <p data-bbox="582 689 1385 763"> 検証方法：いずれの類型も、ルーブリック(「くまテクアチーブメント」H27)による評価を用いる。 </p>	(建築型) 第1型	新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を育成する教育プログラム i-construction 等を活用した建物の耐震診断技術、新耐震技術を文化財に応用する技術、被災時における建築技術者としての対応ができる人材育成のために、i-construction (非破壊診断等) の活用や伝統工法の技術の習得等について研究する。	(インテリア型) 第2型	居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を育成する教育プログラム 災害公営住宅等での居住空間におけるコミュニティづくりの技術、生活を快適にするアメニティづくりに関する考え方や能力等を身に付けさせるために、避難所運営支援器具やコミュニティ支援具の製作、まちづくり整備について研究する。
(建築型) 第1型	新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を育成する教育プログラム i-construction 等を活用した建物の耐震診断技術、新耐震技術を文化財に応用する技術、被災時における建築技術者としての対応ができる人材育成のために、i-construction (非破壊診断等) の活用や伝統工法の技術の習得等について研究する。				
(インテリア型) 第2型	居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を育成する教育プログラム 災害公営住宅等での居住空間におけるコミュニティづくりの技術、生活を快適にするアメニティづくりに関する考え方や能力等を身に付けさせるために、避難所運営支援器具やコミュニティ支援具の製作、まちづくり整備について研究する。				
<p data-bbox="193 763 319 801">大分県立</p> <p data-bbox="193 840 507 922"> <small>おおいたみなみ</small> 大分南高等学校 (福祉) </p>	<p data-bbox="528 763 730 801">【研究開発課題】</p> <p data-bbox="550 817 1385 965"> 九州から届け!!「福祉」南風プログラム開発 <small>しあわせ</small> ~ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成~ </p> <p data-bbox="528 1003 759 1041">【研究開発の概要】</p> <p data-bbox="523 1048 1390 1196"> 地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーとなることを目指した「『福祉(しあわせ)』南風プログラム」の開発を通して、社会福祉の発展を担う職業人を育成し、『ジェネラル・ケア・ティーチャー』として福祉力を発信していく。 </p> <p data-bbox="523 1202 1390 1350"> そして、本研究に基づいた福祉教育の指導の工夫・改善の継続と、小中学生や地域等への福祉の魅力発信の継続が、介護福祉人材の質の向上と量の確保につながる「『福祉(しあわせ)』の好循環」を創出し、持続可能な福祉社会の構築を目指していく。 </p> <p data-bbox="528 1357 823 1395"> 1 先進プロジェクト </p> <p data-bbox="523 1402 1390 1550"> 介護福祉士としての災害時の福祉支援力、介護ロボット等の有用性を活用した技術力、認知症ケアメソッドの研究、福祉先進国の政策、外国人支援の「Welfare English」など幅広い知識と高度な技能を身につかせ、先進的な専門性を高める。 </p> <p data-bbox="528 1556 823 1594"> 2 連携プロジェクト </p> <p data-bbox="523 1601 1390 1711"> 大学、地域等との連携学習を通して、利用者や地域、多職種の状況、課題等を共有、理解し、利用者や地域に応じた観察力、発想力、課題解決力を身につかせ、豊かな創造性を育成する。 </p> <p data-bbox="528 1718 932 1756"> 3 マインド育成プロジェクト </p> <p data-bbox="523 1762 1390 1910"> サーバントリーダーシップセミナー等を通して、職場や地域で求められるリーダーとしての資質、死生観・倫理観、認知症の理解力を高めることで、多様性を受容できる力、人間関係を調整できる力を身につかせ、豊かな人間性を育成する。 </p> <p data-bbox="528 1917 852 1955"> 4 発信力プロジェクト </p> <p data-bbox="523 1962 1390 2027"> 上記3つのプロジェクトで身につけた力を、生徒が『ジェネラリスト・ケア・ティーチャー』として地域福祉講座の実施や関係機関等への提 </p>				

	<p>言活動等を通して、実践、検証し、メディア等を活用して発信することで、企画力、運営力、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育む。</p>
<p>鹿児島県立 鹿児島水産高等学校 (水産)</p>	<p>【研究開発課題】 地域に貢献する取組を通して「本物の専門的職業人」を育成するためのプログラム</p> <p>【研究開発の概要】 本校が目指す「本物の専門的職業人（将来にわたって水産業及び海洋関連産業の動向に対応でき、豊富な知識と高度な技術力を習得した人材）」を育成するため、積極性、責任感、協調性、向上心、コミュニケーション力、分析力、継続力、実践力、創造力、表現力といった資質・能力の向上を目指す。具体的には、「地域の災害に備える」及び「地域の産業を支える」という視点から、学科の特性に応じた以下の7つのテーマに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 港湾内の航路を確保するための水中ロボット(ROV)開発(海洋科機関コース) 臨時災害放送局開設に向けた取組(情報通信科) 地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発(食品工学科) 防災ベンチかまどで調理可能な非常食レシピの開発(食品工学科) 藻場への新たなアプローチに関する取組(海洋科栽培工学コース) チョウザメの種苗生産とキャビアの活用(海洋科栽培工学コース) 海技免許講習の充実による後継者育成に関する取組(海洋科海洋技術コース)